

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	商店街（代表者） スーパー（店長）	来客数の動き 販売量の動き	・ 今月はバーゲン月ということで、3か月前に比べるとかなり買物客が増えてきている。 ・ 今月の販売量は、前年を10%ほど上回っており、6月以降、右肩上がりて推移している。
	変わらない	一般小売店 〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・ 3か月前に比べると、売上はそれほど悪くないが、8月は季節的に売上の大きい時期であることを考慮すると苦戦している状況にある。前年と比較すると、売上は10%ほど減っており、消費が底にある状態が続いている。
			百貨店（売場主任）	来客数の動き
		百貨店（売場主任）	販売量の動き	・ 来客数はそれほど変化がみられないが、販売量が伸びず売上につながっていない。
		スーパー（役員）	単価の動き	・ ここ数か月、状況に大きな変化はなく推移している。お盆を過ぎた段階では、商品単価の前年からの上昇率が大きくなっている一方で、買上点数が減少している状況にある。
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・ 例年より気温が低いことから、飲料水やアイスクリームなど利益率の高い商品の販売量が減少している。来客数は前年を上回っているが、売上、利益は苦戦している。
		その他専門店 〔ガソリンスタンド〕（経営者）	販売量の動き	・ 家計の節約志向により、販売量が伸び悩んでいる。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・ 原油高騰による様々な影響が消費生活全般に影響を与えている。旅行の安近短傾向が定着していることに加えて、海外旅行における燃油サーチャージが増加傾向にあるなか、打つ手のない状況にある。
		タクシー運転手	お客様の様子	・ 依然として繁華街への客足が伸びておらず、タクシー利用も低調なまま変わらない。
		タクシー運転手	販売量の動き	・ 8月はお盆の帰省客や夏の色々な催し物があり、タクシー業界にとっては繁忙期となるが、今年はタクシー利用客が大幅に落ち込んでいる。
		タクシー運転手	お客様の様子	・ 今月は夏休みでもあり、観光客の入込が増えることを期待していたが、実際には期待していたよりも少なかった。また夜の繁華街も客が少なく、売上は伸びなかった。
	通信会社（企画担当）	競争相手の様子	・ 相変わらず客が基本料金の安い料金プランへ移行し続けていることに加えて、各社が更なる電話料金値下げに走っていることから、収益の悪化が懸念される状況にある。	
	設計事務所（職員）	お客様の様子	・ 民間建設事業が低調ななか、唯一積極的だったファンドを資金とする事業の工事が、デベロッパーの破たんにより中断している。工事費の回収も見通しがつかず、下請も含めた建設関連の状況は暗雲に包まれている。	
やや悪く なっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・ 今月は真夏日がなく、地域最大の祭りである港まつりも2日間は雨で中止又は変更となり、盛り上がりには欠けた。また、北京オリンピックを自宅で見守る傾向がみられたことから、商店街の集客も極端に減少しており、業種にかかわらず各店とも低調に推移した。	
商店街（代表者）	お客様の様子	・ セール時において、買いたいけれども今回はがまんするといった声や何でもかんでも値上がりになって先行きが不安だという声が客から直接聞かれるようになった。従来から慎重な買い方となっていたが、更に慎重さが増しているようにみられる。		

商店街（代表者）	お客様の様子	・客の行動は非常にシビアになっており、悪い方向へ動いていることがうかがえる。
百貨店（売場主任）	単価の動き	・日用品の値上がりと今後への不安感からファッションに対して投資をしようという動きがなく、高級ブランドが不振であることに加えて、売上の中心となる婦人服にも買い控えがみられている。
百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・中旬までセール品は堅調に推移した。お盆明けは平年よりも気温が低く推移したため、秋物ファッションに動きが出てくることを期待したが、実際には動きが鈍く、期待外れの展開であった。市内中心部の人出がお盆頃から目に見えて減少したことから、北京オリンピックの開催と消費者の節約マインドの上昇により、外出を控え家で過ごす人が多くなっている。
百貨店（役員）	販売量の動き	・今月はお盆明けの週以降の落ち込みが厳しくなっている。特に人口2～3万人の地方店の動向が悪い。昨今の原油、原材料高の動きを受けて、商品単価が上昇しているにもかかわらず、全体的に厳しい状況で推移していることから、客1人当たりの買上点数と買上客数が大きく減少している。
スーパー（企画担当）	お客様の様子	・単価の高い商品の動きが悪い。その一方で、プライベートブランドの売行きが非常に良く、価格が低ければメーカーは問わないという傾向が強くみられる。
スーパー（役員）	単価の動き	・商品の値上げにより、客が買い控える傾向がより強くなっている。
コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・前年との気温差が大きいため、夏型商品が軒並み減少している。また、ガソリンの高騰によって、お盆時期の車利用客が伸び悩んでいることもあり、厳しい状況となっている。
コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・物価の上昇が継続しているなか、天候不順に見舞われたことから、夏型商品の動きが鈍くなっている。来客数は前年を上回っているが、客単価の低下が目立っており、消費者の買い方が渋くなっていることがうかがえる。
家電量販店（店員）	来客数の動き	・相変わらず平日の来客数が少ない。オリンピック需要も落ち込みがみられた。
家電量販店（地区統括部長）	販売量の動き	・薄型テレビやDVDレコーダー、冷蔵庫といった大物家電商品の販売量の減少もさることながら、客単価が大きく落ち込んでいる。客が少しでも安い商品を選ぶ傾向が強くなってきている。
その他専門店【医薬品】（経営者）	来客数の動き	・夏物も思ったほど売れず、医薬品や健康維持型製品までもぼつとしない状態にあることから、光熱費や食費以外は貯蓄に回している様子が見えうかがえる。
高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・原油高騰による物価高が旅行の形態を大きく変えている。夕食を始めとした店舗利用においては観光客の利用動向が売上に大きく影響するが、ファミリー層を中心とした首都圏の個人観光客は前年から15%ほどの減少となり、レストランの利用減少につながった。
高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・夏休み前半はガソリンの高騰や北京オリンピックの影響を心配したが、ほぼ前年並みで推移した。ランチは前年を20%上回るなど健闘したが、ディナーの落ち込みが前年を20%下回るなど苦戦した。
高級レストラン（スタッフ）	お客様の様子	・来客数は前年並みに近いが、ドリンク類が減少していることから、客単価が下がっている。給料日後の高級居酒屋でもビールや日本酒などの定番のアルコールがサワー系などに移行している。客は高級店の利用を控えており、利用しても低価格のメニューを選ぶなどして節約している。地方では多くの店で来客数の減少が続いているが、インターネットや携帯電話の口コミではやっている店もある。ただし、繁盛店でもドリンク類を含めた客単価は低下している。
スナック（経営者）	来客数の動き	・2月と8月は売行きが悪いという傾向はあるが、それよりも景気の低迷が続いていることの影響が大きい。
観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・ツアー客の落ち込みが大きい。国内客、海外客、地元客のいずれも入込数は前年を下回っている。一方、個人客は、レンタカー利用客が多いが、定員稼働率を押し上げるまでには至っていない。

	観光型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・今月の宿泊数をみると、何とか前年並み、3か月前並みの販売量を確保できた状態であり、ガソリン高の影響で旅行全体が安近短になっている傾向がうかがえる。
	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・燃料高の影響から、国内旅行、海外旅行とも前年を下回っている。海外旅行に至っては前年を12%も下回っている状況にある。
	観光名所（役員）	来客数の動き	・8月前半は家族客を中心にまずまずの来客数で推移したものの、後半は団体客が低迷していることに加え、悪天候が続いていることから、来客数が前年を下回るのが確実な状況にある。
	観光名所（職員）	来客数の動き	・北海道の観光シーズン最盛期のなか、当施設の利用客数はほぼ前年並みであった。台湾や韓国を中心に海外客が増加している一方で、ガソリンや物価高騰の影響から国内客が減少している。
	その他レジャー施設（職員）	来客数の動き	・来客数が減っている。季節要因や、目新しさの不足、スタッフの能力、駐車場の利用しにくさなどの施設的な要因を考慮しても減少が目立っている。リピーターの利用頻度も低下しており、企画イベントの集客も少なくなっている。
	美容室（経営者）	来客数の動き	・例年、お盆前後は繁忙期となるが、今年は全く盛り上がりがなく、通常時と同様の売上であった。
	美容室（経営者）	来客数の動き	・6月以降、来客数が前年を下回って推移している。その減少幅も6月よりも8月の方が大きくなっている。
	設計事務所（所長）	お客様の様子	・例年のこの時期と比べて、問い合わせ件数が激減している。
悪く なっている	商店街（代表者）	販売量の動き	・商店街全体として売上が伸び悩んでいる。お盆の祭り期間中を除き、来客数が減少していることに加えて、生活関連商品等の動きが鈍い。
	スーパー（店長）	お客様の様子	・ガソリン価格の上昇により、遠方からの来客数が減少している一方で、自転車や無料送迎バスを利用する客が前年から10%ほど増加しているなど、ガソリンの節約志向が高まっている。また、高級商品の動きが悪く、購入するブランドのランクを下げる傾向がみられる。
	スーパー（店長）	競争相手の様子	・新たな競合店ができたことで、店舗を取り巻く環境が厳しくなっている。
	衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・客から景気が悪いとの話をよく聞く。買い渋りの様子もうかがえ、ジーンズを試着して気に入っても買わないで帰る客も多い。羽織物も例年であれば気温が下がると売れ始めるが、今年はあまり動きがみられない。また、前年に引き続き行っている10%引きのセールにおいても、前年は売上が前年比180%となったのに対して、今年の売上は前年比70%と落ち込みが目立っている。
	家電量販店（店長）	単価の動き	・家電販売におけるオリンピック需要は予想以上に少なく、期間中においては前年維持さえ厳しい状況であった。また、物価上昇に呼応して、低価格商品のウエイトが高くなっており、客単価も低下している。
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・ただでさえ悪いのに販売量が極端に落ち込んでいる。法人需要が冷え込んでいるほか、個人需要も所得低迷の影響で、門前払いの状況にある。
	乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・8月に入って、売上台数が大きく減少している。
	スナック（経営者）	来客数の動き	・今月は北京オリンピックがあったこともあり、客足がかなり遠のいている。また、地元建設業の大型倒産があったことから、建設業界の人が街に出てくる機会が少なくなっており、今まで以上に街の活気がなくなっている。
	タクシー運転手	来客数の動き	・例年、8月のお盆休みはタクシーの利用が減り、稼動も落ちるが、今年はカレンダーの関係でお盆休みの期間が長かったことから、売上が大きく落ち込んでいる。また、燃料も高くなっているため、収益も悪くなっている。
	タクシー運転手	販売量の動き	・夜間の繁華街の客層が若者主体になっており、タクシーを利用するような富裕層が減っている。

		住宅販売会社 (経営者)	お客様の様子	・来客数が少ないことに加えて、客の様子も非常に慎重になっている。
企業 動向 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている			
	変わらない	輸送業(経営者)	取引先の様子	・燃料の高騰が少し下火になっている感じがあるものの、例年に比べるとそれほど良くはない。
	やや悪く なっている	食料品製造業 (団体役員)	受注量や販売量の動き	・例年、8月は需給量が落ち込む月であるが、消費者の節約志向は更に強まっており、食品の購入品目や購入金額が減少している。
		家具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・住宅着工数の減少に伴い家具の市場も縮小している。特に、地方都市での減少が顕著である。請負物件も件数が減っている。
		出版・印刷・同 関連産業(役員)	受注価格や販売 価格の動き	・用紙やインキ、運送費などの主要な原材料価格や外注価格が軒並み上昇している一方で、競争が厳しいことから、価格転嫁が思うように進んでいない。
		輸送業(支店 長)	受注量や販売量の動き	・燃料の大幅アップが続くなか、外航コンテナ船社に変化が現れてきた。道内各港に寄港する船の抜港、小型船化という形で変化が出ており、これにより、輸出入数量も前年を下回って推移している。
		通信業(営業担 当)	受注量や販売量の動き	・春先と比較的して、販売量が目に見えて落ち込んできている。
		金融業(企画担 当)	それ以外	・設備資金の需要は少ない。原材料や食料品の価格上昇が企業収益と家計を圧迫しており、経費の削減や個人の節約志向が強まっている。住宅着工も将来不安からか、前年の大幅な落ち込みからの回復テンポが予想よりも遅い。
		その他サービス 業[システムハ ウス](経営 者)	競争相手の様子	・全体的に仕事量が減ってきており、人余りを起こしている会社が出てきている。
その他サービス 業[建設機械 リース](支店 長)	取引先の様子	・原材料の値上げに伴い、利幅が減少しているとの話ばかりを聞く。		
悪く なっている	食料品製造業 (役員)	受注価格や販売 価格の動き	・受注量は増えているが、原料価格の値上げが続いているほか、燃料価格の高騰も続いている。また、販売価格の値上げに対する了解は得られたが、値上げ価格での納品時期が秋以降に遅らされていることから、収益環境は厳しくなっている。	
	その他非製造業 [鋼材卸売] (役員)	受注価格や販売 価格の動き	・ここ最近、製品価格が軒並み上がっているにもかかわらず、実際の販売価格は据置きとなっているケースが目立っており、物によっては値上げ前よりも安く売られているケースもみられる。値上げ前に確保した品物の安売り合戦が行われている状況にある。	
雇用 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	-	-	-
	変わらない	人材派遣会社 (社員)	周辺企業の様子	・同業種の求人数の推移をみると、過去よりも求人数が減っており、雇用機会が減っている状況にある。
		求人情報誌製作 会社(編集者)	雇用形態の様子	・正社員の採用意欲は潜在的にあるものの、人件費と人材スキルの関係から、企業の採用意欲はより慎重になりつつある。
		職業安定所(職 員)	求人数の動き	・7月の新規求人数が前年を6.3%下回った一方で、新規求職申込数は前年から6.3%の増加となっており、月間有効求人倍率は前年を0.06ポイント下回る0.41倍となり、大幅な減少となった。
学校[大学] (就職担当)	採用者数の動き	・採用内定はあるものの、確定までには至らないケースが多々みられる。		
やや悪く なっている	人材派遣会社 (社員)	周辺企業の様子	・企業の業績は現状維持で、大きく下回っている様子はみられないが、経営者始め担当者も心理的に弱含みで、企業の採用意欲の向上には結び付いていない。当社の求人も若干減少したが、これはお盆休みの影響であり、業績が悪いなかで、良い人材を取りたいという企業の動きに変わりはない。	

	新聞社 [求人広告] (担当者)	求人数の動き	・ 求人広告の売上は、前年を若干下回っている。ただし、飲食関係の求人が前年から半減するなど激減している。飲食店、特に夜の居酒屋、スナック等の不景気具合を端的に反映しているとみられる。
悪く なっている	職業安定所 (職員)	求人数の動き	・ 7月の有効求人倍率は0.38倍であり、8か月連続で前年を下回っている。また、新規求人数は前年から10%ほど減少している。